

# 記録をまとめる- 整理作業 -

## 東北大学埋蔵文化財調査室

皆さんが日々、大学生活を送るキャンパス内に遺跡があることはご存知でしょうか。川内南キャンパスは仙台城二の丸地区の上になっており、川内北キャンパスは二の丸北方武家屋敷地区の上にあります。

青葉山キャンパスは青葉山B遺跡、青葉山C遺跡、青葉山E遺跡の縄文時代と旧石器時代の遺跡の上にあります。東北大学電子光理学研究センターがある富沢地区では、縄文時代や古墳時代に土器を作るために粘土を採掘した芦ノ口遺跡があります。

皆さんの足元には豊かな歴史の痕跡が遺されており、校舎を建てる時や水道管などを改修する時、必ず発掘調査をしています。

さて、遺跡の発掘調査ですが、実は調査現場では完結しないのです。調査で得られた遺構（柱の痕跡や池跡・溝跡など）の記録や取り上げた遺物（お茶碗など当時使われていたもの）を室内で整理し、さらに必要な記録を取り、まとめたものを報告書として作成します。報告書を作成してようやく発掘調査の一連の業務は完結します。

特に現状保存されない遺跡の調査では、報告書は調査後失われる遺跡の代わりに後世に残す記録の中心となります。



各キャンパス・地区の発掘調査報告書

東北大学埋蔵文化財調査室では、各キャンパス・地区で発掘調査した遺跡の報告書を継続的に刊行しています。また、報告書は図書館でも閲覧できますが、それ以外に

下のサイトからデータをダウンロードできます。多くの皆さんが簡単に報告書を利用できるようにしております。

報告書刊行後も、別の地点や地区の新しい調査成果が明らかになると、過去の報告書の内容にどのような影響を与えるか常にチェックしております。つまり調査する範囲が増えるにつれ新しい知見も得られますが、この成果を過去に刊行した報告書の内容にもフィードバックし、成果の充実を図ります。このような成果は新しい報告書に反映されたり、論文として報告されることもあります。報告書の刊行は発掘調査の一区切りですが、そこで終わりではないのです。

東北大学埋蔵文化財調査室ウェブサイトはこちら→ <http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>  
各調査地点の詳しい成果は、『東北大学埋蔵文化財調査年報』、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』にまとめております。東北大学附属図書館で閲覧できます。  
東北大学機関リポジトリからダウンロードできます。 <http://tohoku.repo.nii.ac.jp/>  
全国遺跡報告総覧 <http://sitereports.nabunken.go.jp/ja> からダウンロードもできます。



二の丸北方武家屋敷

川内北キャンパス



仙台城跡二の丸地区発掘調査地点

川内南キャンパス



青葉山キャンパス



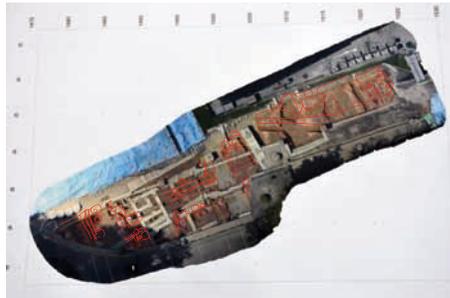
富沢地区

# 報告書作成の工程は大きく遺構と遺物の2つに分けられます

裏面は報告書の作成過程  
(整理作業)をまとめました

## 遺構図面整理の工程

現場測量生データの調整  
空撮測量図面の調整



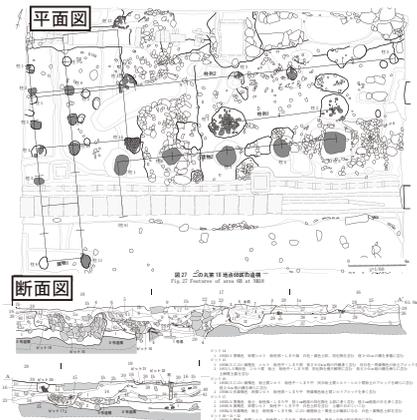
現場で作成した遺構図面や上空から撮影した写真から作成した測量図面を調整して、遺跡の様相がつかめるようにします。上の写真は空撮の写真に遺構の図面を反映させたものです。

台帳の作成  
写真の分類・調整



遺構の様相を整理するため、各遺構それぞれの図面や写真を整理し、台帳を作成します。

報告書掲載用図面の作成



遺構の平面図と土層の断面図を組み合わせ、土層の説明文を加えた図面を製図し、大きさをきめて報告書の遺構図面とします。

図面のレイアウト  
写真のレイアウト

各遺構を説明する文章や遺構の造られた順番を説明する表の作成



遺構写真も大きさをきめて配置します。建物の柱の痕跡を線で結んで建物の規模を分かりやすくするような場合もあります。

## 遺物整理の工程

未整理の状態



現場で袋詰めして、運びます。

洗浄・注記



泥を良く落とし、現場で調査カードに書かれた情報(日付、どの遺構から、どの層位から出土したか)を遺物に直接書き込みます。

接合・補修  
分類・集計



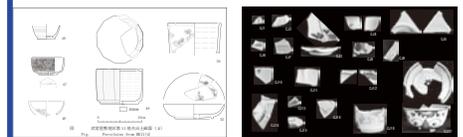
注記後に各遺構やエリアごとに遺物を整理して、陶器・磁器・かわらけなど種別ごとに分け、接合・補修を行います。遺跡ではバラバラの破片で見つかりますが、丹念に接合して、一個体に見つけます。この後に各遺物がどの土層から、どの遺構のどの土層から何点出土したか、細かく集計します。

実測(原図作成)



遺物の平面形や断面の形態が分かるような投影図を作成します。

トレース  
図面のレイアウト  
写真のレイアウト



各遺物を説明する文章や特徴を記載した観察表の作成

実測が終了した図面をパソコンを用いて丁寧にトレースし、大きさを合わせて、各遺構や土層ごとに並べて、報告書用の図面にします。遺物写真も写場で撮影し、パソコン上で同様に大きさを合わせて分かりやすく並べます。

遺構と遺物の整理の進行に合わせて常に情報の共有

遺構・遺物の内容を総合的にまとめて発掘調査報告書の完成



発掘調査と同様に多くの過程を経て、調査記録が報告書として刊行されます。